

Y24a            **2012年金環日食日本委員の活動**

大西浩次, 海部宣男, 大川拓也, 大越 治, 齋藤 泉, 佐藤幹哉, 篠原秀雄, 塩田和生, 塚田 健,  
松尾 厚, 三島和久, 森 友和, 山田陽志郎 (2012年金環日食日本委員会)

2012年5月21日の金環日食では、日本国内の多くの人々が居ながらにして金環食や部分食を楽しむことができる(齋藤ほか、本年会)。人々が、この日食を安全に楽しむためには、適切な情報発信がきわめて重要である。そこで、2011年4月22日に国内天文関連団体・機関の合同組織「日本天文協議会」のワーキンググループの一つという位置付けで「2012年金環日食日本委員会」(以下、日食委員会)を設立した。この日食委員会では、安全な日食観察をめざす4つの柱を掲げて活動を展開している。1.日食観察に関する知識を周知する(大川ほか、本年会)。2.安全知識の基礎となる日食メガネなどの観察方法に関する調査研究を行なう。3.日食関連イベントなど観察の機会提供に関する情報を収集・発信する。4.シンポジウムを開催し日食に関心をもつ方々の情報交換の場を創出する。これまで、2回のシンポジウムを日食委員会主催、国立天文台研究集会として開催した。キックオフ的要素を持つ第1回シンポジウム(2011年5月21日@東京理科大学)では、主に目の障害発生防止に関するセッションを設け、太陽光のブルーライトの危険性を周知する最初の機会となった。第2回シンポジウム(2011年10月29日@日本未来科学館)では、「みんなで楽しむために」をテーマに日食へ向けたさまざまな取り組みを紹介した。いくつかのグループ、団体による観測計画の発表も相次いだ(井上ほか、本年会)。第3回シンポジウムは金環日食の1ヶ月前、4月21日に国立天文台三鷹にて開催する。また、日本眼科学会、日本眼科医会とも協力し、文部科学大臣宛に、「2012年5月21日の金環日食に関する要望書 - 多くの児童・生徒や市民に安全に日食を観察してもらうために - 」を提出するなど、安全な日食観察の普及に向けた諸活動を続けている。